教育

「返還不要型」遅れる日本

世界の中でも授業料が高い日本の大学。卒業後の雇用環境は回復の兆しが見えない。そんな中、学ぶ機会の確保のため進学を支える存在であるべき日本学生支援機構の公的奨学金は貸与型が基本で、返還が重荷になるケースが増えている。海外と比べるとどうなのか。なぜ滞納が起きるのか。これからの奨学金はどうあるべきなのか。3回にわたって報告する。

借金もう増やせない 進学を断念

山形・19歳女性

「申し訳ないけど大学進学はあきらめてほしい」。山形県内に住む女性(19)は高校3年だった昨秋、母に告げられた。友達が進路を決める頃だった。

家計が厳しいとは聞いていた。高校1年で祖母が寝たきりになり、介護のため、打ち込んでいた吹奏楽部を辞めた。奨学金に頼っての進学も家族で考えたが、父に借金があり、卒業後に返還が必要になることがブレーキをかけた。「通信制なら」と受験し、合格したが、父が仕事でけがをして休業。20万円ほどの入学金が重く、入学はあきらめた。

大学で心理学を学びたいと思っていた。「友人が希望の大学に進むと聞いた時はうらやましかった。返還しなくていい奨学金があれば親も考慮してくれたかもしれない」と女性は話す。

奨学金という名のローン

上

学費、世界でも高水準

家庭の経済力が進学率を左右する。そんな実態は、東京大が2005~06年に実施した調査結果で明らかになっている。

年収1千万円を超える家庭での4年制大学への進学率が6割を超える一方、200万円未満では3割を下回った。

背景の一つには、大学の学費の高さがある。

文部科学省によると、国立大の授業料（国が示す標準額）は11年度が約53万5千円、私立大は平均約85万8千円。いずれも高くなる傾向にある。

経済協力開発機構（OECD）の「図表でみる教育2011年版」によると、国公立大の授業料（08~09年度）は、ドル換算で加盟34カ国のうち、米国、韓国、英国に次いで4番目に高い。また、日本は私大に通う学生の率が高く7割に達するが、私大の授業料も同様に高水準だ。

東京大の小林雅之教授（教育社会学）は「授業料の増額は、教育の質を求めようとする世界的な傾向」と指摘する。米国や英国、韓国などで授業料の高騰が社会問題化し、これまで無償だったドイツでもここ数年、一部の学生から授業料を徴収し始めているという。

6月にあった奨学金制度の充実を求める集会。給付型導入などを求める約3万4千人分の署名を国会議員に手渡した＝東京都千代田区

公的な支援は乏しく

しかし、主要国の大半には給付型の奨学金制度がある。米国の有力私大では授業料が数百万円のところもあるが、給付される奨学金の分を差し引けば数十万円で済むケースもある。英国も、授業料を値上げする場合は必ず大学が給付型奨学金を設けなければならない。これまで給付型がなかった韓国も近年導入した。

OECD加盟国のうち、教育機関への国や地方自治体による公的支出の国内総生産（GDP）比は、日本は3・3%で最下位。高等教育に限っても0・5%で最も低い。逆に、高等教育段階における私費負担の割合は66・7%でOECD平均（31・1%）を大きく上回り、チリ、韓国に次いで3番目に高かった。

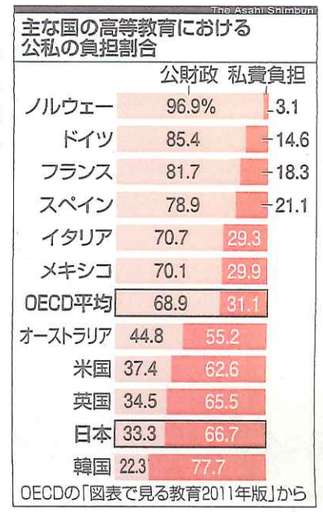
OECDは、北欧諸国について「授業料が無料もしくは低額で、支援体制も手厚い」、米国や英国などについては「授業料が高いが支援体制が整備されている」と記述。日本は韓国とともに「授業料が高く、学生支援体制が整備されていない」「学生や家族は相当な経済的負担を強いられる」と指摘された。

海外では「教育は社会が支える」という考え方がある一方、日本では教育は親の責任という考え方が根強い。小林教授は「将来の経済成長や文化の発展には教育投資が必要」。今年度、奨学金採用時に世帯の年収が300万円以下の学生について、卒業後年収300万円を上回るまで期限なく返還猶予を受けられる「出世払い型奨学金」が導入された。「所得に連動した制度は一歩前進。将来の負担から奨学金を申請しなかったり、進学を断念したりする『ローン回避』が生じると、奨学金本来の役割を果たせなくなる。給付型や授業料免除制度の拡大は不可欠」と話している。

（泗水康信）

◇

次回は13日付の教育面に掲載する予定です。



キャリアセンター発

明治大

苦しい時こそ基本大切に

4年生の内々定の獲得率は6月上旬のサンプル調査で6割超とまずまずの状況。震災があった昨年と比べ、企業の採用意欲もやや好転しているようだ。一方、4割近い学生はきょうも不安と闘いながら必死に頑張っている。

内々定のない学生はとかく焦りがちだ。エントリーシートにも手っ取り早く、「接客の仕事が好き」「リーダーシップがある」などと企業が求めそうな自分像を短絡的に書いてしまう。だが、ここはあえてエントリーシートのことは忘れ、まっさらな状態で自分を見つめ直してみてはどうだろう。自分はどんな人間で、何に感動し、何に怒るのか――。苦しいときこそ基本に返って、生まれてから現在までをじっくりと振り返ってみてほしい。

大手の採用活動が春先に一段落する、というのは就活の定説ではある。でも実際のところ、企業は結構な人数を通年で補充する。「もう枠はない」などと学生同士で勝手に決めつけず、キャリア支援部にきて情報を得るべきだ。いま、足を止めないで頑張り抜けばきっと結果はついてくる。

追い風のときは誰だって頑張れるもの。でも仕事で本当に問われるのは苦境に立ったときの態度と行動だ。面接官はあなたたちのそういう部分をしっかり見抜こうとしている。

（福田敏行・就職キャリア支援部長）

◆◆◆記事や「いま子どもたちは」へのご感想、教育に関するご投稿を募集します。edu@asahi.comまたはFAX03・3542・4855へ。

ニュースでQ

語彙力検定 語彙・読解力検定 http://www.goi-dokkai.jp

最新ニュースからのクイズです。Q1の（ ）には米国の法律の通称が、Q2の（ ）には病気に関する言葉が入ります。それぞれ答えましょう。

Q1 国民皆保険を目指すオバマ米政権の医療保険改革法、通称（ ）に合憲の判決が下った。保険加入の義務化に反発した共和党側の訴えを連邦最高裁が退けた。政権最大の成果がお墨付きを得たが、共和党は反発している。大統領選が行われる年の現職大統領の成果に対する判決として注目されていた。

Q2 くも膜下出血につながる血管のこぶ（ ）は、7㍉以上になると破裂のリスクが高まり、7～9㍉の大きさでは年間に60人に1人が破裂することがわかった。未破裂の6千人を未破裂のにあると